

氏名	板 野 秀 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3527 号
学位授与の日付	平成12年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Partial Liquid Ventilation for Acute Allograft Dysfunction After Canine Lung Transplantation (イヌ肺移植後急性移植片機能不全に対する部分液体換気の効果の検討)
論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 平川 方久 教授 田中 紀章

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肺移植は末期呼吸不全に対する確立された治療法として欧米で広く行われている。再灌流障害による移植後急性呼吸不全の合併は20%にものぼり、その対策は肺移植成績向上のための重要課題である。我々は perfluorooctylbromide (PFOB)による部分液体換気 (partial liquid ventilation, 以下 PLV) が移植後呼吸不全に対して有効か否かを検討した。4℃、18時間 LPDG 液浸漬保存イヌ左片肺移植モデルを用いて移植後360分にわたるガス交換、気道内圧、血行動態を、コントロール群(n=6)、PLV 群(n=6)の2群間で比較した。PLV 群では再灌流15分後に PFOB を経気道的に注入した。全例360分生存し、PLV 群における動脈血中酸素濃度、シャント率、肺泡気-動脈血酸素分圧較差はそれぞれ120分、180分、120分以降有意に良好で、最高気道内圧は240分以降有意に低値であった。これらにより部分液体換気は肺移植後急性呼吸不全に対し、ガス交換、肺メカニクス改善の点で有効であることが示された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、perfluorooctylbromide (PFOB)による部分液体換気が移植後呼吸不全に対して有効か否かを検討したものであるが、本法が肺移植後急性呼吸不全に対し、ガス交換、肺メカニクス改善の点で有効であることを示した価値ある業績と認める。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。